

令和
6年

能登半島地震における 医療支援活動



第1陣

能登半島地震の発生を受け、山口県 DMAT 事務局からの派遣要請に基づき、1月17日(水)から20日(土)まで、能登町で医療支援活動を行いました。

能登半島地震の DMAT 活動について

救急科医長 宮内 崇

令和6年元日に発生した能登半島地震の被災地において、災害派遣医療チーム(DMAT)として地域の診療所や高齢者施設の支援を行いました。当時は、電気は復旧しているものの上下水道はまだ使用できず、現地医療スタッフや施設入所の高齢者が大変な苦勞を強いられているなか、われわれの活動が少しでも役に立てたら幸いです。

メンバー：救急科宮内医長、平田副看護師長(診療看護師)、
十時副看護師長、荒神薬剤師



当院出発



現地での様子



第2陣

中国四国グループの派遣要請に基づき、1月29日(月)から31日(水)まで、輪島市で医療支援活動を行いました。

輪島市での医療支援活動について

外科医長 荒田 尚

我々5名は国立病院機構の医療班として派遣され、輪島市避難所支援グループ指揮のもと活動してきました。数カ所の避難所で調査、診療をおこなったほか、出勤要請に応じて急患の初療に従事しました。本部に残り調整員として活躍した隊員もいました。

医療ニーズが減少する状況下、医療班として多少なりとも被災者の方々のお役に立てたのではと思っています。



活動後、帰還

メンバー：外科 荒田医長、
小川薬剤部長、中野調剤主任、
藤井副看護師長、満田副看護師長



今月の表紙はこちらの
活動の様子です。



職員でお出迎え



現地での様子、食事中